

三焦の構造と原義

日本内経医学会研究発表

林 孝信

2009年1月11日

緒言

三焦とは、五蔵六府のひとつであり、上焦と中焦と下焦を合せたものであり、心包と表裏をなす等々、いろいろな意味を持つ。

しかしその多様性ゆえに「三焦とは何か？」と常に疑問を持たれているのだが、全ての意味を包括する明快な概念がなかなか得られない。

そこで、ここでは三焦とは二つの概念が混在しているものと考えて、三焦を二つに分離することを提案する。

そして意味の変遷を考えながら、その構造と原義を明らかにすることを試みてみよう。

ふたつの三焦概念

三焦a : 五蔵六府のひとつの泌尿器。別名下焦。

十二経では心包と表裏関係。狭義の三焦。

三焦b : 上焦・中焦・下焦の総称。飲食物が胃腸

を下り営衛を生成する生理学。広義の三焦。

三焦a

- 三焦病者。腹氣滿。小腹尤堅。不得小便。
窘急。溢則水。留即爲脹。 (L04邪氣藏府病形)
- 膽胃大腸小腸膀胱三焦六府。 皆爲陽。
(S04金匱真言論)
- 下焦溢爲水。 膀胱不利爲癰。不約爲遺溺。
(S23宣明五氣篇、L78九鍼論も類似)
- 心主手厥陰心包絡之脉。 起于胸中。出屬
心包絡。下膈。歷絡三焦。 (L10經脉)

三焦a の意味の変遷

膀胱と同じ泌尿器系。別名下焦



五蔵六府のひとつ



心包（膻中）と陰陽表裏関係

三焦b — 營衛生會篇で体系化

上焦：人有熱飲食下胃。其氣未定。汗則出。

…其不循衛氣之道而出。

中焦：乃化而爲血。以奉生身。莫貴于此。

故獨得行于經隧。命曰營氣。

下焦：別迴腸。注于膀胱而滲入焉。…

酒亦入胃。穀未熟而小便獨先下。

三焦b のイメージ

飲食



胃

腸

上焦 ⇒ 汗(→皮膚)、衛気

中焦 ⇒ 血、営気(→経脈)

下焦・膀胱 ⇒ 小便

語の使用例から原義をさぐる

蔵府を並べる箇所では「大腸・小腸」と「膀胱・三焦」は、連続して表記される。

- ・ 膽胃 大腸小腸膀胱三焦 六府。 皆爲陽。
(S04金匱真言論)
- ・ 脾胃 大腸小腸三焦膀胱 者。 倉廩之本。
營之居也。
(S09六節藏象論)
- ・ 夫胃 大腸小腸三焦膀胱。 此五者。 天氣之所生也。
(S11五藏別論)

「膀胱三焦」も、「大腸小腸」のような意味の反する語の組み合わせではないだろうか？

- 膀は、澎と通じ、ふくれる。
- 光に、広・張の意がある。
- 膀胱：疊韻の連語、ふくれるものをいう形況の語であろう。（白川静『字通』）
- 膀胱：ぱんぱんに張ったふくろ。
（藤堂明保『漢和大辞典』）

- ・ 三：参加の参と通じて、いくつもまじること。(藤堂)
参は、簪(かんざし)三本を髪に挿した形で参集の意(白川)
- ・ 焦：単語家族「秋焦酒就秀瘦宿肅戚」の
基本義：しぼる、ちぢむ、ほそい(藤堂)
- ・ 秋・穰：「龜+火」は龜卜の焦灼の字で、焦の音でよむ。
秋tsiu、收(収)sjiuは声近く、あるいは意味にも
関連のある語であろう。(白川)
龜を火でかわかすと収縮するように、作物を火
や太陽でかわかして収縮させることを示す。(藤堂)

結語

膀胱は膨張する・広がる意味で、三焦は収縮する・ほそいこと。つまり膀胱に連続し反対の意味の「収縮すること」これが三焦の原義だろう。

機能的には、腸から膀胱や三焦に浸透して、膀胱は尿を溜め、三焦はそれをしぼる、と言えるであろう。

三焦aは、「泌尿器で収縮するもの」とする初期の意味に、「蔵府のひとつである」との意味が加わる。

他方、営衛の生理学を体系化する際に、それまで使っていた「三焦a」を「下焦」と言い換えて、上焦・中焦・下焦を統括する新しい概念の「三焦b」を創作した。

これが二つの三焦の構造である。